



分かち合う「みことば生活の大切さ」

聖書同盟は、日本ウィクリフ聖書翻訳協会、聖書を読む会との共催で2023年9月に岐阜県で行われた第7回日本伝道会議（JCE7）において分科会「スモールグループ・セミナー」を開催しました。そのセミナーの講演、聖書を読む会総主事島先克臣師による「神と人を愛する小さな群れを目指して」のエッセンスをご紹介します。分かち合う「みことば生活」の大切さを聖書に基づいて語られました。

報告 総主事兼 CSK 主事 嶋田博考

町の中に教派教団やグループの教会または単立教会の建物があるのが私たちの現実です。分科会のセミナーの時間、そこから私たちの思いは初代教会の時代に移され、その現実を目を留めました。生まれてから300年、たびたび迫害が起こり、「会堂」がない信仰者の群れが、ローマ帝国内で確実に広がり、国教にまでなった当時の教会の姿に思いを巡らしました。

まず、「スモールグループの大切さ」が語られました。何でもおできになる主イエスでさえ、大切な働きを担う弟子を育てるとき、少人数でなさいました。初期の教会の様子が語られるとき「家」または「家々」と聖書に出てきますが、このセミナーではハウスグループと呼びました。一つの町の教会は、長老たちが導く、いくつかのハウスグループで構成されていました。ハウスグループは、神の愛と赦しを土台とする、みことば中心の交わりでした。

次に、ハウスグループは「神と人を愛した小さな群れ」でした。聖餐や礼拝や宣教ももちろんなされましたが、貧しい人を助け、旅人をもてなす愛の実践がなされました。それはイエスの山上の教えを素朴に実行するものでした。しかし、この群れの心からの生き様またあり方が、ローマ社会の人々を魅了し、その異教文化を内側から変革し、帝国全体を大きく変えていきました。

最後に、改めて当時のハウスグループの教会が大切にしていたことに目を留めました。旧約聖書のメシア像を理解するということです。新約聖書を記していく使徒たちに先んじて、マリア、アンナ、シメオン、バプテスマのヨ



セミナーの様子

ハネも、これを大切にしました。旧約聖書が示すメシアの使命は、「この地上全体を神への愛と、人への愛で満たすこと」です。主イエスの生涯はその使命を果たすものでした。そして、大宣教命令の権威のもとで、ハウスグループの教会は、次また次の世代へと主の弟子であることを大切にしました。

セミナーでは、海外のフィリピンの教会について報告され、この講演の後は、スモールグループの実践のために手助けとなることを、三団体の代表者がそれぞれコメントさせていただきました。

その後10月7日には、オンラインのフォローアップセミナーを開催しました。スモールグループの集会を実際に持つ場合の課題や経験を持ち寄り、分かち合いました。

◇今年も CSK キャンプが行われました◇

今年のCSK キャンプは、対面で開催される2回目の夏キャンプでした。インキャンプは8月7日(月)～11日(金) 山梨県富士吉田市にある鉱泉閣という施設で、CSK キャンプ出身者でもある山口武春師(ニューホープ横浜主任牧師)を講師に開催され、また、アウトキャンプは、8月14日(月)～18日(金)に例年と同じ松原湖バイブルキャンプ・アウトキャンプ場(長野県小海町)で、芳田佳奈師(JECA 前橋キリスト教会主任牧師夫人)を講師に行われました。その中で、アウトキャンプに参加した中学生の証しを紹介します。

=証し=

今年のキャンプは3回目、対面でのキャンプは2回目の参加でした。対面の初参加の去年とは異なり、仲間と初日から馴染むことができました。特に、自分のグループのキャンパー、スタッフ全員の事はキャンプ前から知っていました。なので、初日から難なくコミュニケーションを取れて、とても濃い5日間を過ごすことができました。

2日目のグループでの自由行動は、牧場とお風呂に行くのみで体力温存でした。4日目の自由行動は、キャンプ場で過ごし、昼飯はおにぎり1個、色々な果物を焼いて食べました。3日目の山登りで縦走まで参加した2人がヘトヘトだったからです。それでもその2人は、クライミングボードをやるなどして、ヘトヘトのまま動き騒ぎ続け、最後は満身創痍でした。台風が通過する中、全てのイベントが予定通り開催できたことに驚きました。神様の守りがあったのかなと思っています。

芳田佳奈先生のメッセージはご自身の体験を交えながらお話して下さり、自分の実生活に直接通じる部分をその話の中に感じることができました。心に残ったのが2日目の「罪」に関わるメッセージでした。人は自分の思いを優先させて「罪の責任」が発生した事が語られ、そして、本来私たちが引き受けるべき「罪」をイエス様が引き受けて下さった事を知りました。ここまでの話は今まで教会などで薄々知っていた事でした。けれども、イエス様を殺したのは私たちであるという事に衝撃を受けました。その時に話して下さった先生の実体験がとても心に残っています。先生がアメリカでイースターの時に聞いたメッセージです。その中で、神様を殺したのは誰ですかという質問になったそうです。その質問の答えは「It's you」。僕はこれを聞いた時に、「It's you」という英語のカジュアルさと、そのたった2単語が持っている意味の深さに驚きました。そして、自分の罪に落胆するのではなく、罪に気づき悔い改めてひざまずき、神様からの赦しに感謝しようと思いました。

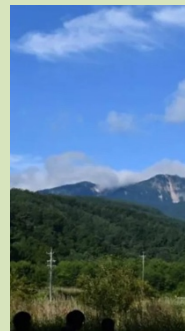
アウトキャンプとしては今年新しく「Q&A」というコーナー設けられました。「天使と悪魔はいつ生まれたか」とか「神様は未来を知っているのか」などの質問を、教職者の講師やスタッフが答えて下さいました。中高生の素直な疑問に大人が真剣に答えてくれていて面白かったし、とても勉強になりました。

同じグループになった先生とはよくお話しをして、キャンプファイヤー後にも色々語り合いました。祈りについて話した時、今までの自分の祈りが一方通行だった事に気付きました。そして、自分のまわりの出来事にも敏感に反応して、日常生活を送りたいと思いました。また、神様の答えは即時に返ってくるものではないので、待ち続けようと思いました。ここまで祈りについてはなんとなく聞いたことがありましたが、よく考えたら分かる事もあるので、自分でも意識しなければならぬのだと思いました。

キャンプを終えてから洗礼についても考えるようになりました。自分は物心ついた時から教会に通うのは当たり前だったのですが、教会から離れた時期がありました。そのことによって、賛美したりみことばを聞いたりすることが、いかに喜ばしいことか感じるようになりました。そして今、自分にとって神様は精神安定剤というか、そういう存在です。例えば、自分が怒っている時、悲しんでいる時に神様の事を考えると心が落ち着き、お祈りするとなぜか安心するのです。まだ、心の底から神様を信じることはできていませんが、近い将来に神様を心から信頼して信じることができるように、今はお祈りしています。

これからは神様から離れないように、そして離れても、もう一度神様を信頼できるように祈ろうと思いました。そして、与えられている信仰のレースを、自分なりに全力で走りたいと思います。

「私たちも一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」ヘブル人への手紙 12章 1、2節より



アウトキャンプ場から山を見上げる

聖書同盟の新しいホームページができました



今日のみことばの光
箴言 3:21-35

- ホーム
- 聖書同盟とは
- 聖書通読運動
- 青少年伝道運動 (CSK)
- 国際宣教協力
- 出版案内
- お問い合わせ



- ニュースレター各種
- 定期購読申込み
- 見本誌申込み
- 通読のしおり
- 「みことばの光」編集長が語る「みことばの光」的毎日

聖書同盟のホームページが新しくなりました。「聖書通読運動」と「青少年伝道運動」を、他の国と地域のスクリプチャー・ユニオンとの「国際宣教協力」で推し進める、聖書同盟の働きをより分かりやすくご理解いただけるものになっています。また、ホームページからご注文の場合、長らく不具合でご迷惑をおかけしていましたが、クレジットカードでの決済もできるようになりました。通読誌の定期購読のご注文にもぜひご利用ください。

聖書同盟サイトへのQRコード 新しいURL



<https://www.scriptures.sujp.org/>

聖書同盟 CSK の働きの全般を理解するために

今年7月に新生宣教団のホームページで聖書同盟の働きが紹介されました。新生宣教団は、世界の人々のために、各国語の聖書や福音文書などを印刷する、超教派の宣教団体です。聖書同盟では書籍の印刷を依頼しています。聖書同盟の働きについて、「ミッションパートナー紹介」として2回にわたり、とてもよく記事にまとめていただきました。下記のQRコードかアドレスをご利用いただいて、ご覧ください。

- 第1部 https://www.newlifeministries.jp/scriptureunion_vol1/
- 第2部 https://www.newlifeministries.jp/scriptureunion_vol2/

前編



後編



第9回国際青少年キャンプ2024 年末に開催

コロナ禍でストップしていた第9回青少年国際キャンプが開催されます。来年年末から翌年始で、インドネシアのボゴールです。詳細はホームページや案内パンフレットでお伝えします。10月に国内準備を担う国際キャンプ委員会が始動しました。多くの教会からの参加をお待ちしています。今から予定に入れてください。



第 55 回 CSK 中学科教師研修会の予定です

日時：2024年3月2日（土）
 会場：鳩ヶ谷福音自由教会（埼玉県川口市桜町6丁目11-12）
 埼玉高速鉄道・新井宿駅から徒歩約8分
 講師：大嶋重徳師（鳩ヶ谷福音自由教会牧師、元KGK〔キリスト者学生会〕総主事）
 ※対面とオンラインでの開催です。詳しくは、チラシまたはHPをご覧ください。

2023 年度伝道部会計報告(4月-10月)

収 入	予 算	実 績	達成率(%)
聖書通読運動支援献金	4,300,000	2,971,200	69.1
CSK 献金	2,000,000	1,089,027	54.5
通読誌発行(ジエミこ)	100,000	99,500	99.5
東西アジア SU 支援献金	250,000	7,000	2.8
視聴覚活動指定献金	30,000	2,000	6.7
トルコ SU 支援献金	100,000	147,753	147.8
主事支援特別献金	200,000	45,000	22.5
献金収入の合計	6,980,000	4,361,480	62.5
雑収入(受取利息含)	0	0	
収入 合計	6,980,000	4,361,480	62.5
支 出	予 算	実 績	達成率(%)
対外協力費	423,000	320,450	75.8
人件費	3,741,000	1,970,757	52.7
事務管理費	1,344,000	606,911	45.2
活動費	950,000	257,850	27.1
その他	522,000	54,892	10.5
支出 合計	6,980,000	3,210,860	46.0
収支差額	0	1,150,620	

時を悟り、なすべきことを知る
 理事長 稲垣博史

10月に行われた理事会には、スクリプチャー・ユニオンのアジア太平洋地域の担当主事であるリム・テックブーン氏をゲストとして迎えました。冒頭のデボーションで、リム氏は歴代誌第一 12:32 でイッサカル族の指導者たちが「時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っていた」とあるように、私たちは今の状況をしっかり見極め、何が必要で、何をしなければならぬかを知ることが大切だと語られました。その後の理事たちとの話し合いでは、聖書同盟が中学生聖書クラブ協力会（CSK）と合同して来年で40年になるけれども、聖書同盟CSKが聖書を読む運動を軸として、特に青少年への宣教のために教会に仕える働きであることをしっかり「悟り」、なすべきことを知って前進しなければならない、そのためにはどうしたらいいかを中心にディスカッションをしました。教会に子どもや若者の姿が見えなくなりつつある現状の中で、聖書同盟CSKの働きが真に教会の必要に応える働きであることができるようにお祈りください。

トルコ地震支援献金をありがとうございます

2022年10月～2023年7月までに皆さまより捧げられたSUトルコ支援献金は合計258,743円で、その内、トルコ地震支援は162,743円でした。尊いご献金を心より感謝申し上げます。こちらは全てSUトルコへ届けられます。引き続きトルコ地震を覚えて支援献金のご協力をよろしくお願いいたします。

発行：一般社団法人 聖書同盟 Scripture Union Japan
 〒214-0013 神奈川県川崎市多摩区登戸新町432-304
 TEL 044-900-9047(出版部) 044-900-8990(伝道部) FAX 044-900-9048
 E-Mail info@sujp.org ホームページ <http://www.scriptsures.sujp.org/>

献金送金先 郵便振替：00160-8-173175 聖書同盟伝道部
 銀行口座：三菱UFJ銀行登戸支店(店番258)普通1138865 聖書同盟伝道部
 出版物関係送金先 郵便振替：00140-4-57061 聖書同盟出版部